EVENT NEWS RELEASE

立命館大学
RITSUMEIKAN UNIVERSITY

2026.11.5

報道関係者　各位

＜配信枚数 2 枚＞

■開催案内■

立命館土曜講座 2026 年 12 月テーマ

マイノリティとしての子ども 障害や慢性疾患があっても遊べる社会へ

開催日程 ： 2026 年 12 月 5 日（土）・12 日（土）10 時 00 分～11 時 30 分

開催方法 ： ハイブリッド開催（衣笠キャンパス末川記念会館＋ZOOM）

2026 年 12 月の立命館土曜講座は、立命館大学生存学研究所の企画として、ハイブリッド形式（衣笠キャンパス末川記念会館＋ZOOM）で開講いたします。

どなたでも無料で受講いただけますので、ご関心のある方のご参加をお待ちしております。

記

■立命館土曜講座 2026 年 12 月テーマ

マイノリティとしての子ども 障害や慢性疾患があっても遊べる社会へ

(1)がんを抱えた子どもの居場所とつながり

日時 ： 2026 年 12 月 5 日(土) 10 時 00 分～11 時 30 分

講師 ： 立命館大学生存学研究所　補助研究員　笠井　敬太

(2)障害児の主体性― アドボカシーと交差性の視点から

日時 ： 2026 年 12 月 12 日(土) 10 時 00 分～11 時 30 分

講師 ： 熊本学園大学社会福祉学部　教授　堀　正嗣

開催方法 ： ハイブリッド講座(衣笠キャンパス末川記念会館・ZOOM)
内　　容 ： 別紙参照
聴 講 料 ： 無料
定　　員 ： 衣笠キャンパス末川記念会館:180 人、ZOOM:400 人
※実施前日 12 時 00 分までに要事前申込。定員に達し次第、受付を終了。
申込方法 ： 立命館土曜講座の WEB サイトよりお申し込みください。
https://www.ritsumei.ac.jp/doyo/
主　　催 ： 立命館大学衣笠総合研究機構
そ の 他 ： 文字通訳を配信しています。

以上

本リリースの配布先:京都大学記者クラブ

●内容についてのお問い合わせ先
立命館大学衣笠総合研究機構　担当:尾崎・堀　　TEL.075-465-8224

別 紙

■立命館土曜講座 2026 年 12 月テーマ

マイノリティとしての子ども 障害や慢性疾患があっても遊べる社会へ

(1)がんを抱えた子どもの居場所とつながり

日時 ： 2026 年 12 月 5 日(土) 10 時 00 分～11 時 30 分

講師 ： 立命館大学生存学研究所 補助研究員 笠井 敬太

講師による内容紹介 ：

がんを抱えた子どもにとって大切なのは治療を受けることだけではありません。学校に通う、友だちと遊ぶ、家族と過ごすなど、それまでの日常や人とのつながりを維持していくことがとても大切になります。長い入院や治療によって学校や友人から離れると「自分の居場所がなくなってしまった」と感じることもあります。

がんを抱えた子どもにとっての居場所とは、「ここにいてもいい」「自分のことを受け入れてもらえている」と感じられる関係や環境も含まれます。また、同じようにがんを経験した仲間と出会い、「自分も同じだった」という話を聞くことで、「悩んでいるのは自分だけではない」と気づくことがあります。

しかし、つながりは多ければよいというものでもありません。病気について誰かと話したい時もあれば、病気から少し離れて過ごしたい時もあります。誰と、いつ、どのようにつながるのかを、子ども自身が選べることも大切です。

今回の講座では、がんを抱えた子どもを 1 人の生活者として捉え、病院や学校、家庭、地域の中の居場所について考えたいと思います。

(2)障害児の主体性― アドボカシーと交差性の視点から

日時 ： 2026 年 12 月 12 日(土) 10 時 00 分～11 時 30 分

講師 ： 熊本学園大学社会福祉学部 教授 堀 正嗣

講師による内容紹介 ：

「子どもは明日の人間ではなく、すでに今、人間なのだ」。これは、子どもの権利の先駆者ヤヌシュ・コルチャックの言葉です。しかし障害のある子どもは、「子どもだから」「障害があるから」と二重に、自分のことを自分で決める機会を奪われがちです。

たとえば、通う学校が本人の意見を聴かれないまま決められる、治療やリハビリの説明が親にだけ行われる、「危ないから」と外遊びや友だちとの遊びが制限される。おとなの「あなたのため」という保護の論理が、子どもの声や遊びの場を狭めているのです。

この講座では、子ども差別（チャイルディズム）と障害者差別（エイブリズム）が重なり合う「交差性」の視点から、こうした状況を考えます。

そして、障害があっても遊べる社会に向けて、子どもの声に耳を傾け、子どもの意見の実現を支援する「子どもアドボカシー」の実践を紹介します。

子どもを「今、ここにいる一人の人間」として尊敬するとはどういうことか、ご一緒に考えたいと思います。

■立命館土曜講座 ＜WEB サイト＞ https://www.ritsumei.ac.jp/doyo/

1946 年から続く、市民向けの無料公開講座。故・末川博名誉総長の「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにある。学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」との思いのもとに、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指しています。